

農業技術情報

平成23年10月1日
ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝農業改良普及センター十勝東部支所
015-572-3128
JA 幕別町 54-2302
JA 札内 56-2131
日甜東部センター 54-2756
幕別町農林課 54-6605

各作物の生育状況（幕別町 10月1日現在） （ ）内は平年値

作物名	生育良否	生育状況		生育期節・作業状況
秋まき小麦	-			は種始 9/27(9/18)
馬鈴しょ	-			収穫期 9/24(9/14)
てん菜	やや良	根周 36.1(35.8) cm		
大豆	並	草丈 77.6(64.5) cm 葉数 9.6(8.5) 枚	m ² 着莢数 591.2(526.5)	
小豆	-	草丈 66.6(55.2) cm 葉数 12.6(9.9) 枚	m ² 着莢数 412.0(317.8)	成熟期 9/18(9/22)
菜豆(金時)	-			収穫期 9/25(9/13)
牧草	-			2番草収穫期 8/27(8/26)
飼料用 とうもろこし	-			黄熟期 9/18(9/25) 収穫始 9/16(9/19) 収穫期 9/25(9/28)
ごぼう	-			収穫始 8/31(9/2)
ながいも (マルチ栽培)	やや良	種子重 28.3(22.4)g 茎葉重 586.3(577.9)g 首長 23.2(21.9)cm	いも長 80.3(74.2)cm いも重 1,196(1,123)g いも径 61.8(63.5)mm	
たまねぎ	-			収穫期 9/19(9/28)

畑作

1 秋まき小麦

(1) 遅まきの留意事項

長雨の影響で収穫作業が遅れ、は種が終了していないほ場が例年以上に多くあります。「きたほなみ」は越冬前の出葉数が少ないと茎数が不足する傾向があり、遅まきでは葉数が不足して越冬性が劣ります。

- は種量はやや多めとしましょう
- 凍上害が発生しやすい地帯では、やや深めには種しましょう。
- 雪腐病の防除を徹底しましょう。

遅まきのは種量の目安

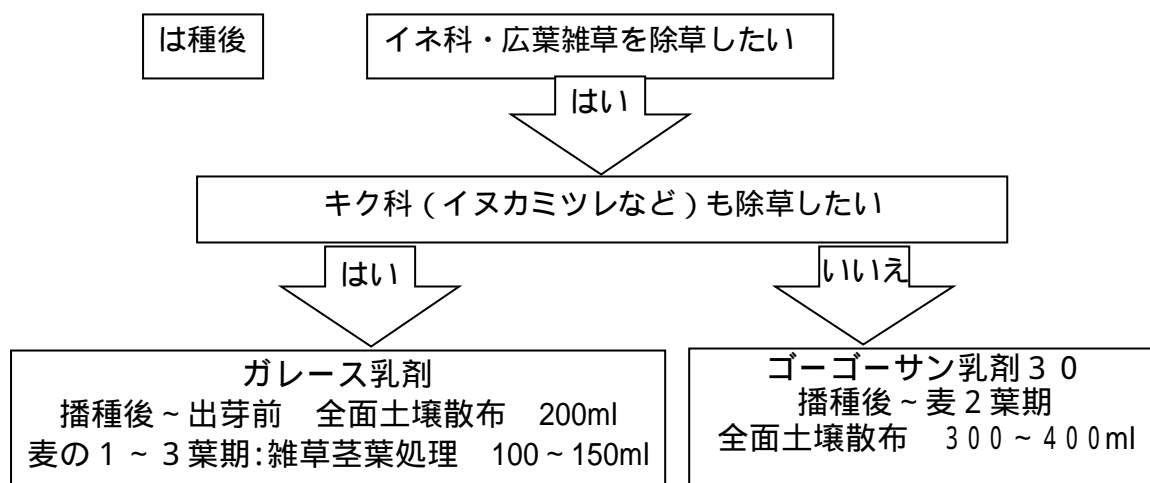
時期	地区別は種量(kg/10a)			千粒重(g)
	本部	南幕	種子	
10/ 1~ 7	9~10	10~11	-	36

(2) 雑草対策

近年、連作ほ場を中心にイネ科雑草や越年生広葉雑草が目立ちます。イネ科雑草対策は今しかない

ので、適期を守って散布して下さい。

雑草の種類に応じた除草体系



○雑草処理剤（広葉雑草対象）の使用

「エコパートフロアブル」小麦2～4葉期、薬量50～75ml/10a、2回以内
エコパートフロアブルには展着剤を加用しない（薬害助長防止）

2 大豆

コンバイン収穫にあたっては、機械の点検と内部の清掃をおこない、品質向上に努めましょう。

(1) 汚粒対策

わい化病株や雑草（特に紫色の実をつけるイヌホオズキ）は事前に抜き取っておきましょう。また、土砂の混入も汚粒の原因となりますので、倒伏がみられるほ場や培土の高いほ場では刈り高さに注意して収穫作業を進めましょう。

(2) 収穫適期

汚粒の原因に大豆の刈り取り時期も大きく影響します。子実水分が20%以下（最適は16%以下）、茎水分が汎用コンバインでは55%以下、豆用コンバインでは60%以下で収穫し、茎表面に「ぬめり」があるときは収穫を止めましょう。

また、刈り遅れも子実の外観品質に影響します。各種作業が立て込んでいますが、適期収穫に心がけてください。

3 心土破碎の実施

作土の膨軟化・暗きょ効果の向上には心土破碎が有効です。収穫の終わったほ場は、晴天が続く時期を見計らって心土破碎や広幅心土耕をおこない、根域が深く確保できるよう準備しましょう。

野 菜

1 最終作型での葉菜類病害虫防除

ほ場の過湿条件から、日中の気温が低下しても軟腐病が発生しています。また、べと病は多発傾向が続いています。最終防除と、水が溜まらないような排水対策をおこなって下さい。

最終作型での収穫が終わったほ場は、次年度の病害虫抑制のために残渣は早めにすき込み、有機物分解を促進して下さい。

2 キャベツの害虫防除

収穫直前の生育となっていますので、食害痕を残さない害虫防除をおこなって下さい。

(1) コナガ・ヨトウムシ・アブラムシ類の防除

薬 剤 名	使用倍率	水量	安全使用基準		対象病害虫
		リットル/10a	使用時期	回	
ハクサップ水和剤	1,000～ 2,000倍	150	前 日	5	アブラムシ類・コナガ ヨトウムシ

ハクサップ水和剤は、害虫に接触・速効性があり、食害痕を残さない

3 はくさいの病害虫防除

(1) べと病とアブラムシ類・ヨトウムシの防除

9月末まで軟腐病とべと病が継続して発生していました。今後、日中の気温が急激に低下すると結球内に害虫が入ってきますので、害虫防除を徹底しておこなって下さい。また、べと病も収穫直前まで防除をおこなって下さい。

薬 剤 名	使用倍率	水量	安全使用基準		対象病害虫
		リットル/10a	使用時期	回	
ストロビーフロアブル	3,000倍	150	3 日前	3	べと病・白斑病・黒斑病
ハクサップ水和剤	1,000～ 2,000倍		前 日	5	アブラムシ類・コナガ・ヨトウムシ

ハクサップ水和剤は、害虫に接触・速効性があり、食害痕を残さない

ただし、アブラムシ類が結球の内側に入っている場合は、アルバリン顆粒水溶剤2,000～3,000倍・収穫3日前・2回以内で防除して下さい

4 ながいも

(1) 10月1日現在の作況

いも長80.3cm(平年比108%)、いも重1,196g(平年比106%)はともに平年を上回っていますが、いも径61.8mm(平年比97%)で若干細い傾向がみられます。

ながいもの生育は、茎葉が淡緑色に変わる時期となっていますが、本年は遅れているようにみられます。乾物率は12.3%(平年12.7%)となっています。

(2) つる切りと収穫準備

10月1日現在の作況調査で、いも尻部が丸くなってきていますが、つる切りは茎葉黄変期以降とし、つる切り前に試し掘りを実施して尻部が丸く、硬くなっていることを確認してから実施して下さい。

本年もいも長が長く若干細い傾向で、乾物率もわずかに低いことから「いも傷」や「折れ」に対する注意が必要です。つる切りから収穫までの期間を十分にとって、いもの登熟を図って下さい。

農作業事故を防ごう！

作業の遅れを取り戻そうとする“あせり”注意

大雨の影響で馬鈴しょ、豆収穫と小麦は種作業が重なり、心身の疲労が心配されます。一層の事故防止に努めましょう。

- 1 . トラクタ発進・PTO始動時は、クラクションを鳴らし周囲に合図する。
- 2 . 機械の調整・整備時（つまり物除去等）は、必ずエンジンを止める。
- 3 . 機械の飛び降り・飛び乗りをしない。
- 4 . 作業機を上げ点検する時や つまり物を除去する時は、機械が降りないように、「固定脚」や「かませ木」を使い、作業機が降りないことを確認する。
- 5 . 夕方や夜間、公道を走行する時は、早めの合図、低速車マーク・反射シールをはり、トラクタの位置や作業機の大きさを目立つようにする。



収穫残さのほ場焼却を避け、堆肥化しましょう！